

私がみなさんに言いたいことはこれ。

「数学を捨てるな」

岡崎先生の勧めで、読んだ記事「数学を捨てるな」が朝日新聞出版のAERA(2020.3.23)に掲載されていました。数学科の私には大変興味深く、数学を学習する上で身に付く力が幅広い仕事で活用され、また期待されていると感じました。それに伴って、大学も社会に求められる人材育成のためにカリキュラムや受験方式を工夫しています。

「第4次産業革命」という言葉を聞いたことがありますか。IoT(Internet of Things)、AI、ビックデータによる変革が「第4次産業革命」と言われるものです。IoTは「モノのインターネット」と訳されます。インターネットはコンピュータ同士を接続するものだったが、スマートフォンやタブレット、テレビ、スマートスピーカー等のモノをインターネットに接続し、モノ同士で情報のやり取りができるようになりました。AI・人工知能で有名なのがPepperや自動運転システム、介護ロボットです。AIやロボットの進化が今後の社会に大きなインパクトを与えていることは容易に想像できます。IoTによりいたるところから情報が得られ、大量で複雑なさまざまな形をしたビックデータを得ることができます。そのデータをAIによって24時間休むことなく処理し、分析することで便利で効率の良い世の中ができています。IoT、AI、ビックデータの相互の作用によってどんどん世の中は進化していき、デジタルに強い人材が必要になっています。つまり、理系だけに限られた話ではないのです。どんな仕事であっても、IoT、AI、ビックデータは密接に関わっています。例えば、人や車の動きをデータ化して読み解き、バスの経路を変えることで住みやすいまちづくりができます。営業職ではクライアントに対して提案の根拠をデータや数字で示します。また、芸術や古文書などもデータ化して見るができます。

このように社会に出れば、多種多量のデータを読み解き、決定する力が必要です。理系、文系関わらず、数学を学習する上で得られる力は今求められている力です。東北大学、筑波大学、山梨大学、富山大学等では全学部の新入生に対してAIやデータサイエンスを学ぶ授業を必修化しています。また、文系学部の受験科目で数学を必須とする大学もあります。それだけ数学の力がある学生が求められ、大学は育てたいと考えているのです。

現在、様々な分野が数学と結びついています。苦手な人は時間がかかりますが、できたときの達成感は非常に大きいと思います。数学でプロセスを学び、そして様々な分野に結び付けられるよう幅広く勉強することが大切です。今みなさんが勉強している内容は、大学に入るためだけの道具ではないことを念頭に置いてもらえると嬉しいです。

ちなみに、AERAの記事には、文系学部出身者で数学を一度でも受験科目にした人は年収が高いというデータもあります。

大学受験を一度でも数学で受けた人の平均年収	532.2万円
大学受験を一度も数学で受けていない人の平均年収	443.1万円

休校明け、みなさんに会えることを楽しみにしています。元気な姿をみせてくださいね。
体を壊さず、今の時間を大切に。

<文責：澁谷>

お願い

スタディサプリの登録をお願いします。